



「考へてもいなかつた進路」

新潟県立高田農業高等学校 勤務
(平成23年生物環境学科卒)

小杉訓広

大学を卒業してからもう少しで一回り。縁あって新潟県の実習助手として採用され8年目になりましたが、私の社会人生活のほとんちは農業高校によるものでした。まさか教員免許の取得も途中で諦め、栽培関係の講義もとつては大好きだ。

私のアナザースカイは、山形・鶴岡です！

に感謝する気持ちは忘れない、自分の娘にもその気持ちを常に持つように言っている。人間が忘れてはいけない大事な心を学ばてくれた鶴岡が私は大好きだ。

「人とのご縁を大切に」

岩手大学大学院
連合農学研究科

森智洋

(平成30年食料生命環境学科卒
令和2年農学研究科修了)

私は現在、大学院で農作物の選別用AI（人工知能）に関する研究をしています。研究以外では、学外の方へAIやロボットの勉強会開催や、プロトタイピングの協力をしています。卒業後には、総合電機メーカーのAI関連の研究職に就く予定です。今まで農学部に在籍していた私がこのようになつたきっかけは、私が学部4年生の時にベンチャー企業を経営

いるということでお声がかかり、農業は全くわからなければパソコンの操作くらいならと経済科の実習助手として1年の任期付きでお世話になりました。

最初電話をもらつたときには、きっと勘違いをされるのだと思い、何度も私は教員免許を持っています。

と確認したことを見ても覚えていました。それでも取りあえずどんな仕事かは来て話を聞いて決めてくれればいいからと言われ、行って話を聞いたら、じゃあやつてくれるかなと言われ非常に驚いたことも記憶に鮮明です。

初めての社会人生活、初めての学校勤務で何が分からぬかも分からぬまま1年が過ぎていきました。

年にせ教育実習すらしたこともなかつたのですから当然と言えば当然かもしれません。

その後、実習助手として正式に採用され、何とか仕事を手探りで覚えながら今に至ります。

この鶴窓会だよりを書く機会をいただき卒業後の自分

の進路を思い返すと、全く以て人生何があるか分か

ませんが、その3年後、実習助手として正式に採用され、何とか仕事を手探りで覚えながら今に至ります。

この鶴窓会だよりを書く機会をいただき卒業後の自分

学生会員の声

6年間を振り返って

生物生産学領域2年)

高校生まで肖方士二

りたいと言つてはいた私が、大
学院まで進学するとは思い
もしなかつた。山形大学に

入学した理由は、高校時代、修学旅行先で食べたお米と今まで食べて育った山形県のお米の違いに気づき、山形県の農業を学びたいと考えたからである。

しいものは出会い、触れることができ充実した時間だった。地元を離れ一人暮らしを始め、様々な人やものと出会い、実際に触れた経験はかけがえのない財産である。

大学に入学して、1、2年生はアルバイトに明け暮れ、3年生からは研究室での研究活動に夢中になつた。お米に関する研究をしたかつたことと縦コンで先輩方が

楽しげにしているのを見て

「限力十二禁」二二

大羽賀岳

ヤスで魚を突いて獲る。
私の所属するサークル「ア
クアライフ」はこの魚突き
専門に活動する。

今年の7月、イシダイと
いう魚を狙いに、とある離
島へ行つた。イシダイは黒と
白の高模様の魚で、0センチ

以上に成長する。大きな個体は体の縞模様が消え、美しい灰色になることから銀リナと呼ばれる。早い中

合5000mほどのところに
小島があるポイントで潜つ
た。小島の近くまで泳ぐと

場が広がっており、スズメダ
イや小さなイシダイが群れ
ていた。その岩場の一角に

どの岩の割れ目があつた。これは何かがいる。直感的に魚の気配を感じ、水面からゆつくり割れ目を覗くと、50cmは優に越えているイシダイがこちらを見ていた。イシダイを刺激しないようにやさしく潜り、ヤスを構



A young man with short brown hair is smiling broadly at the camera. He is positioned in the middle of a vast field of tall, green rice plants. His hands are visible, holding up some of the rice stalks. In the background, there are rolling green hills and a few small buildings under a clear sky.

栽培土壤学研究室に入った。研究室では土や稻に触れ、自分の知識が増えることに喜びを感じている。3年生ではポツト、バケツで稻を育て、4年生からは30aの水田4枚を管理した。初めて自分が育てている稻が、出穂するのを見たときの感動は忘れられない。稻を育てて4年目になるが、今でもスマホで写真を撮り、友達に見せて自慢している。水田の管理だけでなく、研究のための生育の調査、土や稻のサンプリング調査など、これでもかというくらい研究にのめりこんだ。研究以外でも子供たちに農業を教えるわんばく農業クラブや、土壤医検定2級試験、留学生のチューターなど、様々なことに挑戦し、実際に経験することで学んだことがたくさんある。アルバイト先の友人、サークル仲間、研究室の先輩や同期、後輩たち、恩師との出会いや過ごした時間は宝物である。

A photograph of a young man with short brown hair, smiling broadly at the camera. He is positioned in the middle ground, with a vast field of green grass or rice plants in the foreground. In the background, there are rolling hills and some small buildings under a clear sky. The lighting suggests it's daytime.

たため卒業までもきっとあつという間なのだろうと思ひます。本題に戻して鶴岡での1年半の大学生活を振り返つてみると、とても新鮮で有意義なものであり、アルバイトやサークル、大学の勉強それぞれで多くの経験を積み、学びを得ることもが出来ました。まずアルバイトでは自分の人生初の接客業で、困惑することも多々ありました。その中でも先輩や従業員の方々とのコミュニケーションやお客様とのコミュニケーションは学校では身につかない社会性や自分の反省しそれから成長していくかなければならぬい部分を知ることができ、特に自分の中で大きなものとなりました。また短期で行つた枝豆の収穫バイトは鶴岡の伝統と地域の方々との関わりを感じることが出来たため、もし機会があればぜひ誰にでも経験してほしいものとなりました。サークルはバドミントンサークルに入つており、友人との試合やナイターという大会のようなものにも出場しました。大

いうのはあまり想像していませんでしたが、中高生の時よりも精神的に成長しました今は純粋に楽しむことができ、大学生活の良い思い出となりました。大学の勉強は、鶴岡に住むようになつた2年次から専門的なものとなりもちろん難易度も上がりましたがそれ以上に自分の興味を掻き立てるようなものばかりでした。すべての講義が直接的に自分の将来に関わるわけではないですが、どれも自分の礎となるため今後も気を抜かず励んでいきたいです。